



“地域のことは地域で考えよう”

〒900-0013 那覇市牧志1丁目3番45号 3階 電話 (098) 869-8711
2026年3月30日

各 位

株式会社 おきぎん 経済研究所

「第103回おきぎん企業動向調査」
(2026年1-3月期) 調査結果

※ お気づきの点、不明な点などがございましたら、ご遠慮なく下記までご連絡ください。

・担当：上門

問い合わせ先：(電話：098-869-8711 ファクシミリ：098-869-2200)

メール：oei-corp@okinawa-bank.co.jp)

現場主義とお客さまからの信頼

第103回おきぎん企業動向調査（2026年1-3月期）調査結果

～県内（地域・業種別）の経営環境と業況感～

I. 調査概要

- 本調査では各企業の業況感や経営状況項目などについて、企業経営者の主な判断（当期実績、来期見通し）を景気動向指数DIとして取りまとめる四半期調査です。



【調査時期】 2026年2月中旬～3月中旬
 【調査対象】 県内企業 465社回答
 【調査方法】 WEB アンケート調査
 【調査内容】 ①業況 ②売上高 ③売上単価 ④仕入単価 ⑤採算 ⑥引き合い
 ⑦雇用 ⑧設備・その他投資需要

—おきぎんDIとは—

主に企業経営者の業況などに関する実績判断や見通しを「好転・上昇・増加」、「不変（変わらない）」、「悪化・低下・減少」のいずれかでお答えいただき、各割合を表したものです（本レポートでは「悪化・低下・減少」はマイナス表示を使用）。

雇用に関しては、「過剰・適正・不足」でお答えいただき、「不足」はマイナス表示を使用。

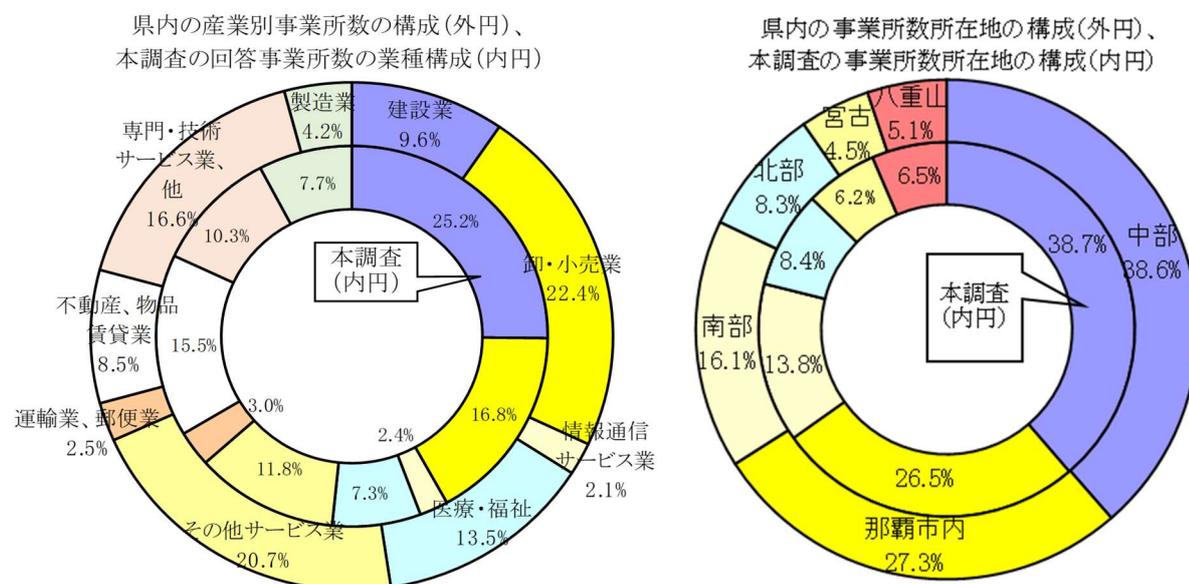
① 「好転・上昇・増加」＋「不変（変わらない）」＋「悪化・低下・減少」＝100%

② DI（景気動向指数）＝「好転・上昇・増加」の割合（%）－「悪化・低下・減少」の割合（%）

従って、DIがプラスなら景気が良い（または上昇見込み）、マイナスなら悪い（または下降見込み）、と捉えます。

➤ 調査対象企業の業種・所在地構成

本調査の業種構成を県内事業所データ（令和6年経済センサス活動調査）と比べると、【建設業（本調査では土木・建築業）】はサンプリング数が多く、【その他サービス業（宿泊、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業など）】はサンプリング数が少なくなっています。

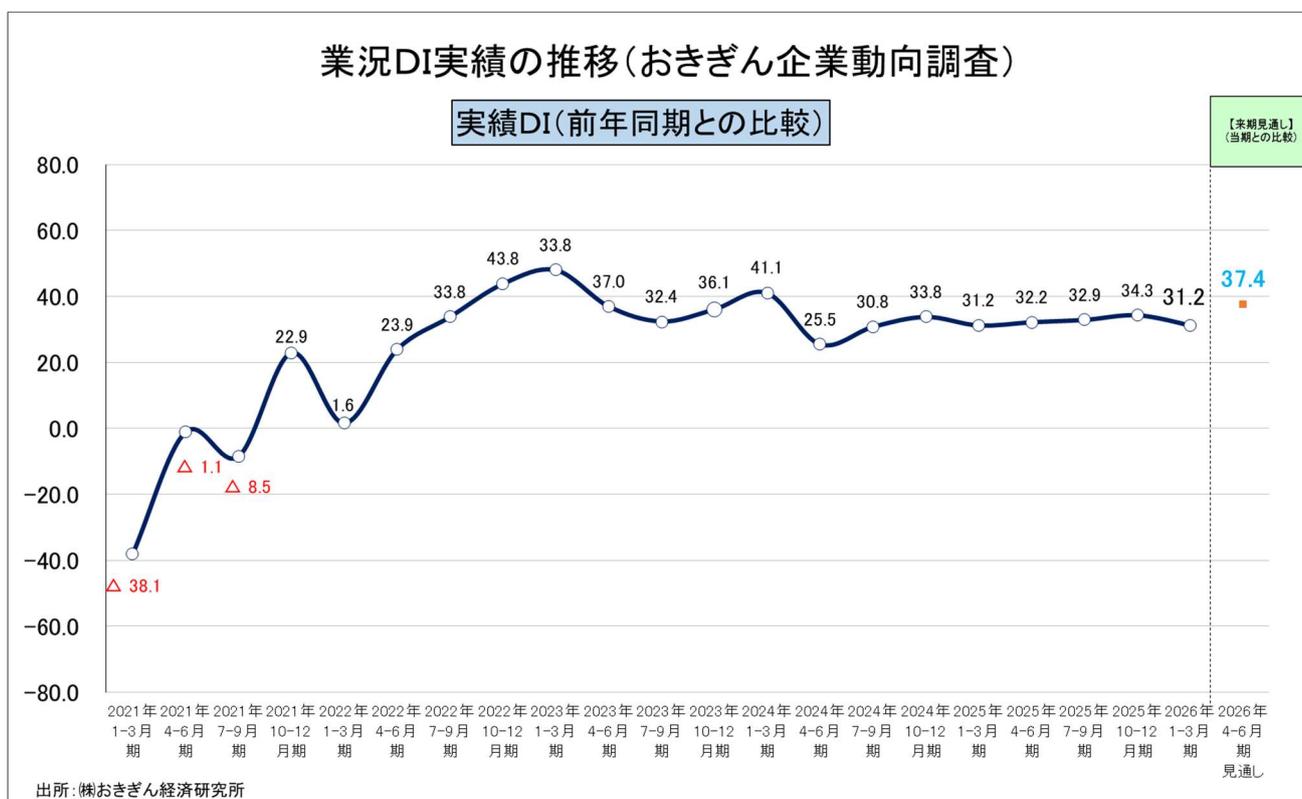


資料) 総務省・経済産業省、当行

II. 調査結果（総論）

- ▶ 当期の業況DIは**31.2**（前年同期比）となり、18期連続でプラスとなりました。来期の業況見通しDIは**37.4**（当期比）となり、引き続き業況改善の動きが見込まれます。業況DI実績の推移について、引き続き高い水準で推移しています。

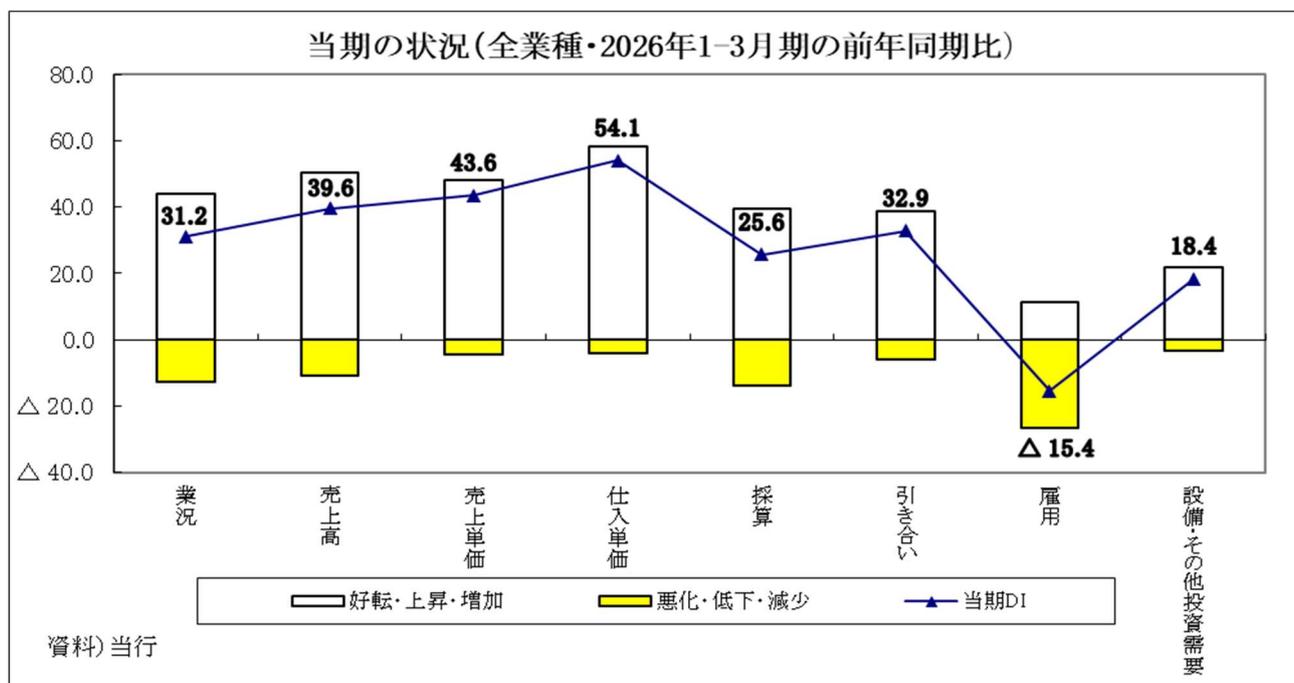
【業況DIの推移】	2024年		2025年				2026年	
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期見通し	
項目	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前期比DI	前期比DI	
全業種	33.8	31.2	32.2	32.9	34.3	31.2	37.4	
製造業	20.0	△13.0	19.4	20.8	38.1	44.4	36.1	
土木業	44.4	42.1	17.6	32.4	36.1	29.0	35.5	
建築業	40.0	47.1	23.9	39.7	35.2	40.7	33.7	
卸売業	18.5	46.2	26.3	26.7	42.9	10.8	37.8	
小売業	30.0	33.3	32.7	35.9	18.9	24.4	34.1	
情報通信サービス業	66.7	33.3	0.0	50.0	63.6	27.3	36.4	
医療・福祉	15.8	10.7	27.6	16.2	△5.6	32.4	44.1	
その他サービス業(宿泊・飲食等)	53.1	70.0	45.2	58.3	40.0	29.1	40.0	
運輸業、郵便業	50.0	33.3	45.5	18.2	44.4	14.3	50.0	
不動産業、物品賃貸業	33.3	30.6	37.7	27.0	42.5	31.9	41.7	
専門・技術サービス業、他	27.8	10.8	37.7	29.0	33.3	33.3	31.3	



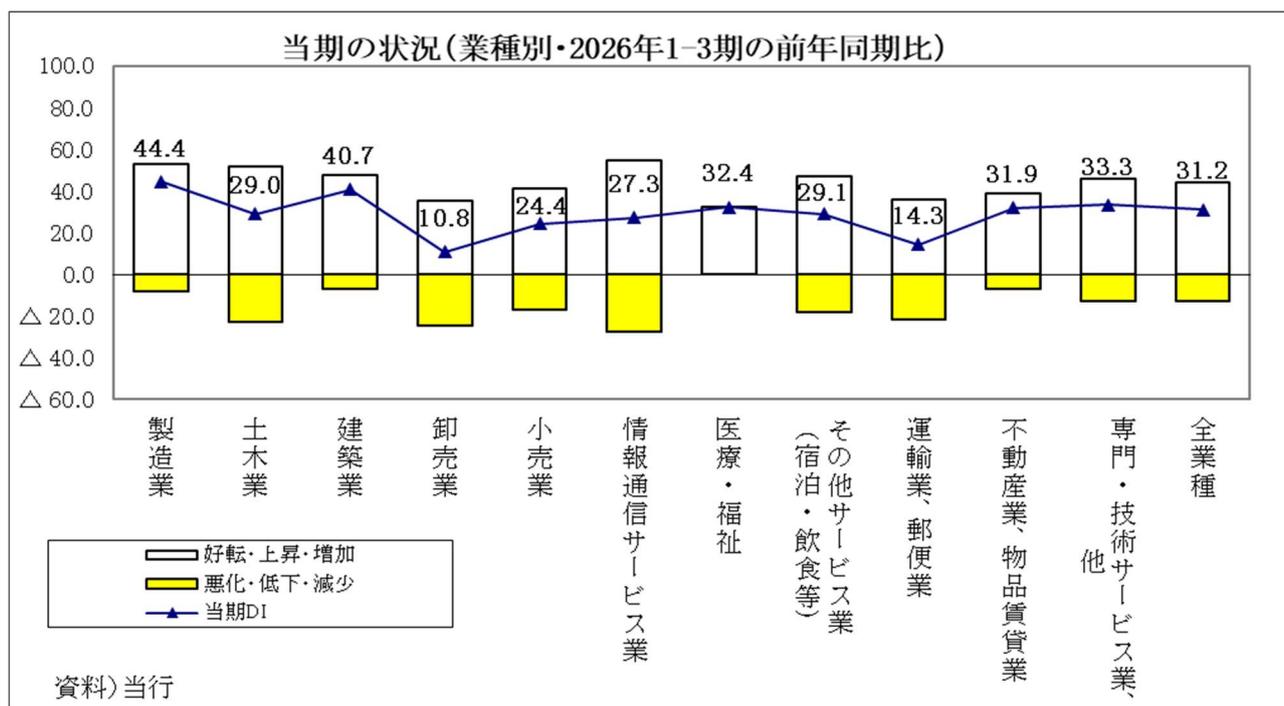
※「2026年4-6月期（見通し）」**37.4**については、今期（2026年1-3月期）との比較であり、前年同期との比較ではありません。このため折れ線グラフは連続していません。

1. 当期の状況 (2026年1-3月期の前年同期比)

- 当期の業況DIは**31.2**となり、業況改善がみられます。項目別では、売上高(39.6)や売上単価(43.6)などの項目でプラスとなりました。採算(25.6)は仕入単価(54.1)の上昇により他項目と比較しポイントは低くなっています。雇用(△15.4)はマイナスとなっており、人材不足が見られます。

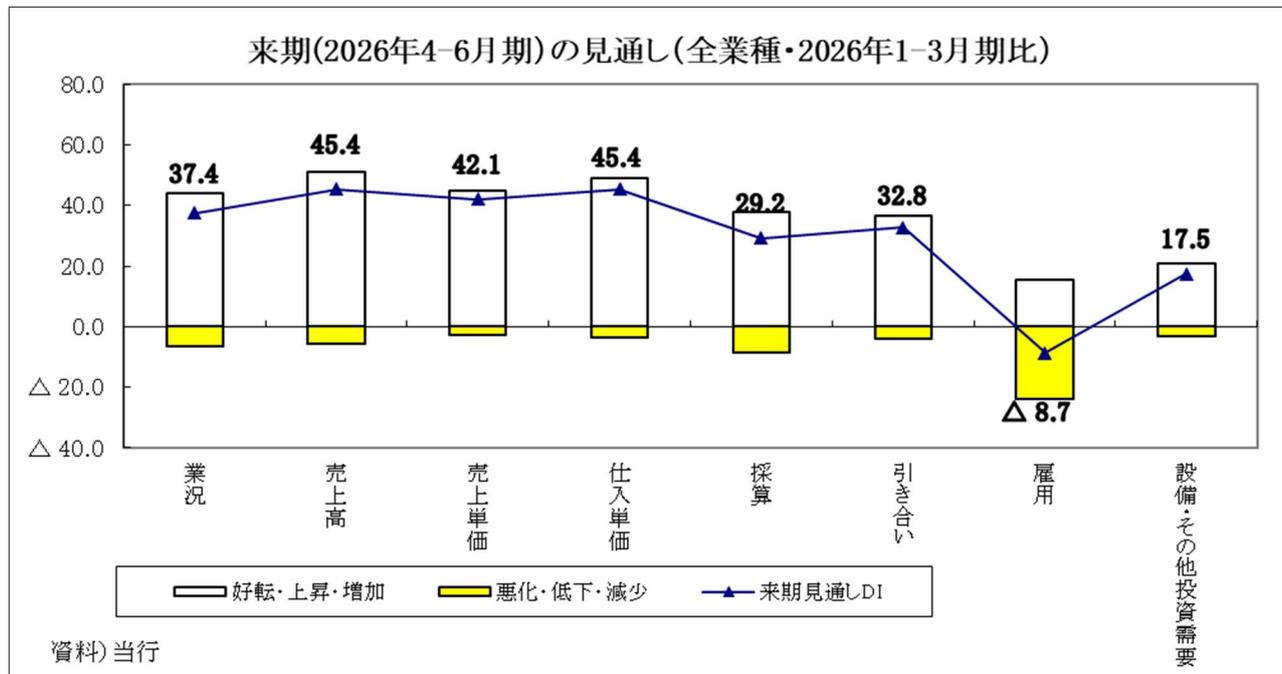


- 業種別では、【製造業(44.4)】、【建築業(40.7)】、【専門・技術サービス業、他(33.3)】、などでポイントは高くなっています。全業種プラスとなっており、好調な業況がうかがえます。

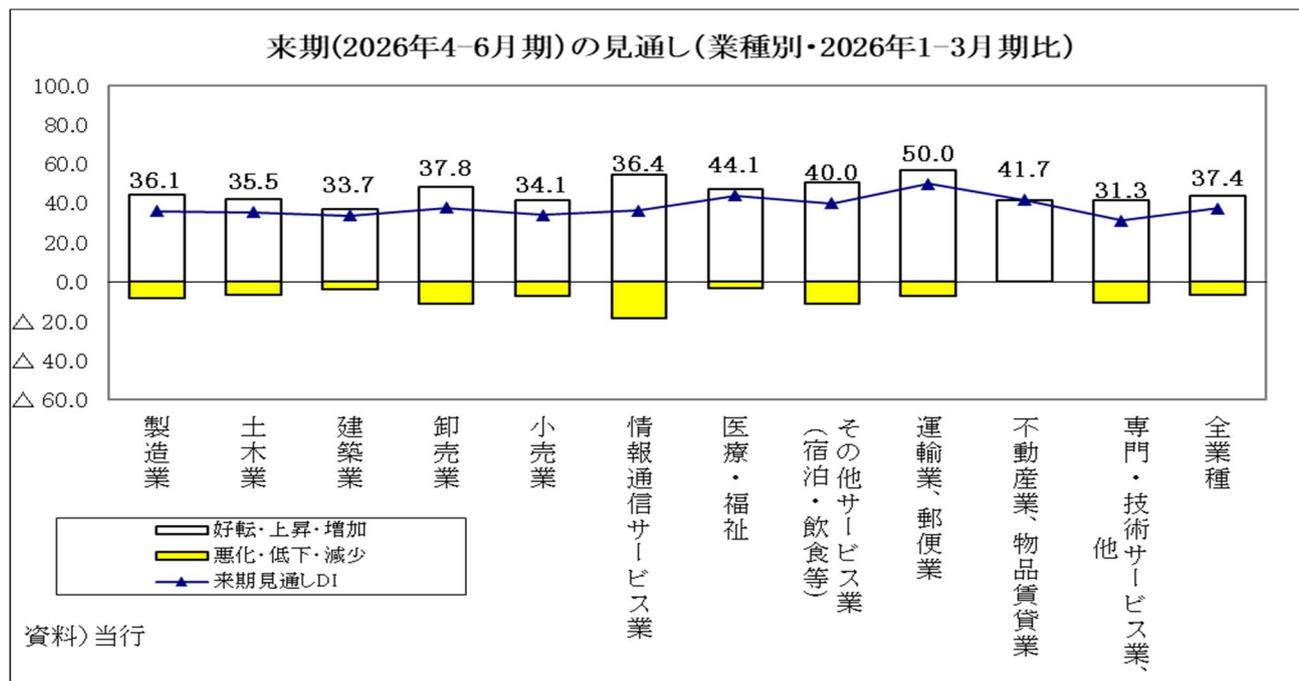


2. 来期の見通し (2026年4-6月期の当期比)

- 来期の見通し業況DIは**37.4**となり、引き続き業況改善の動きが見込まれます。項目別では、売上高(45.4)や売上単価(42.1)などで改善が見込まれます。雇用(△8.7)は人材不足が続く見通しとなっています。

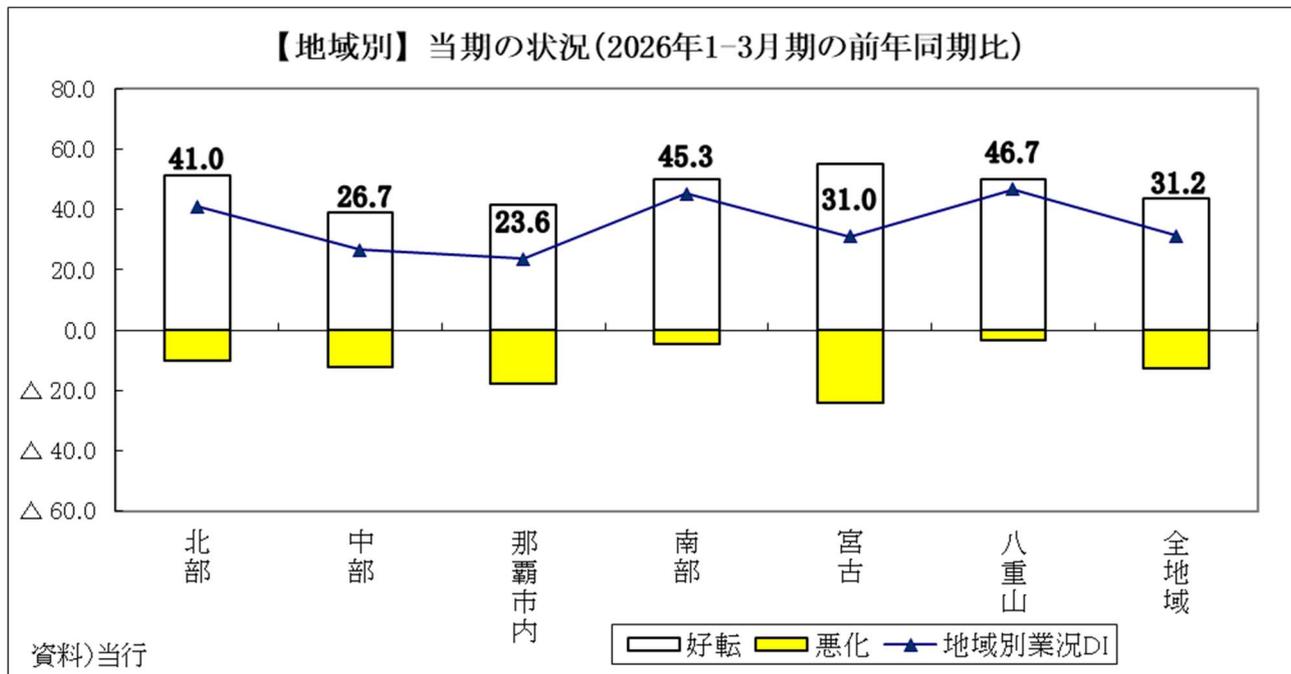


- 業種別では、全業種においてプラスとなりました。【運輸業・郵便業(50.0)】や【医療・福祉(44.1)】は売上単価の引き上げ予定などからポイントは高くなっています。【不動産業、物品賃貸業(41.7)】や【その他サービス業(宿泊・飲食等)(40.0)】は、引き合い増加や売上単価の引き上げ予定などから、ポイントは高くなっています。

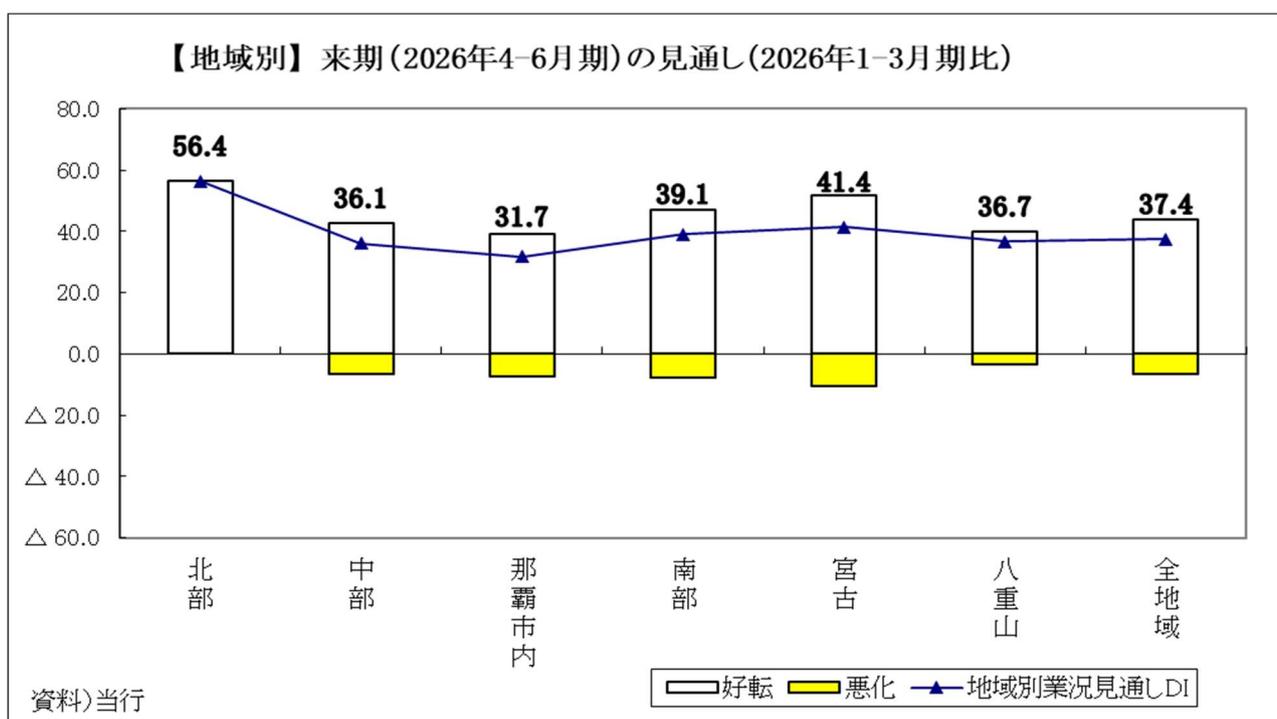


3. 地域別の業況 DI

- 当期の地域別業況 DI（前年同期比）について、八重山（46.7）は観光客数の増加や、建設関連工事の受注増加などからポイントは高くなりました。南部（45.3）は、公共工事の受注増加などによりポイントは高くなりました。



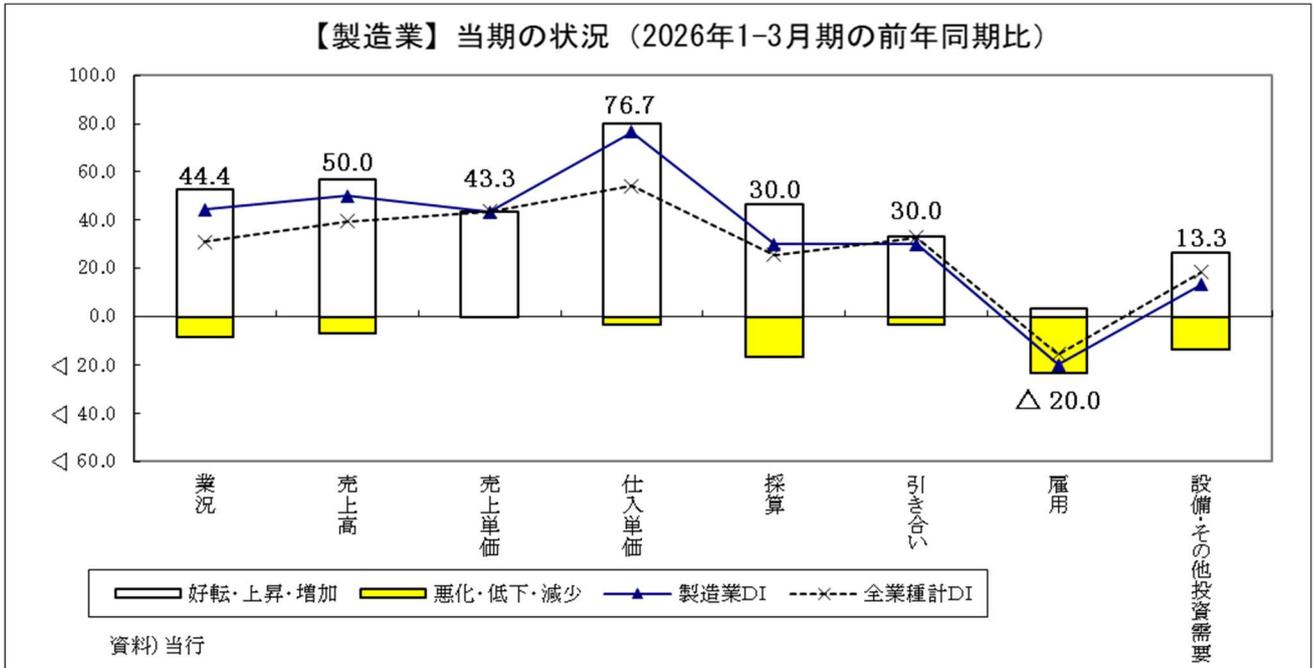
- 来期の地域別見通し業況 DI（当期比）について、全地域において業況改善が見込まれます。北部（56.4）は観光客数増加や、大型の公共工事受注見込みなどにより、他の地域と比較しポイントが高くなっています。



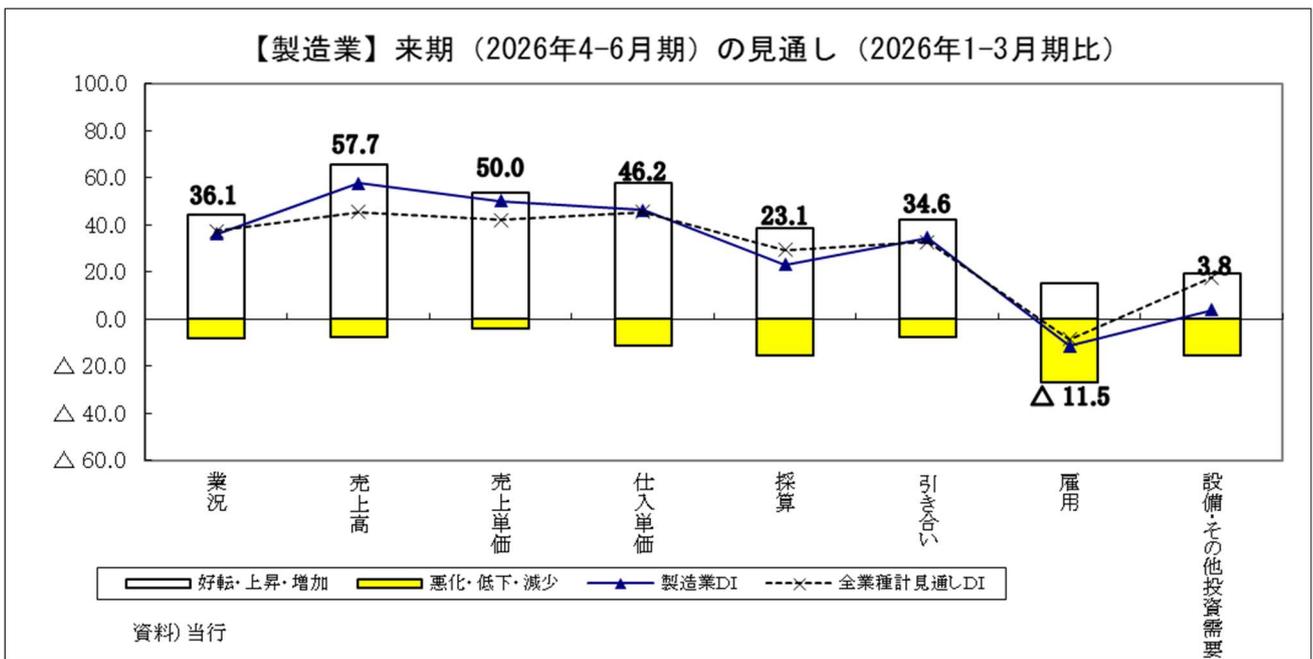
Ⅲ. 調査結果（各論）

1. 製造業（回答企業：36社）

- ▶ 当期の業況DI（前年同期比）は**44.4**となりました。売上高（50.0）は、売上単価（43.3）や引き合い（33.0）が改善した事業者がみられました。仕入単価（76.7）は原材料費の上昇が続いています。

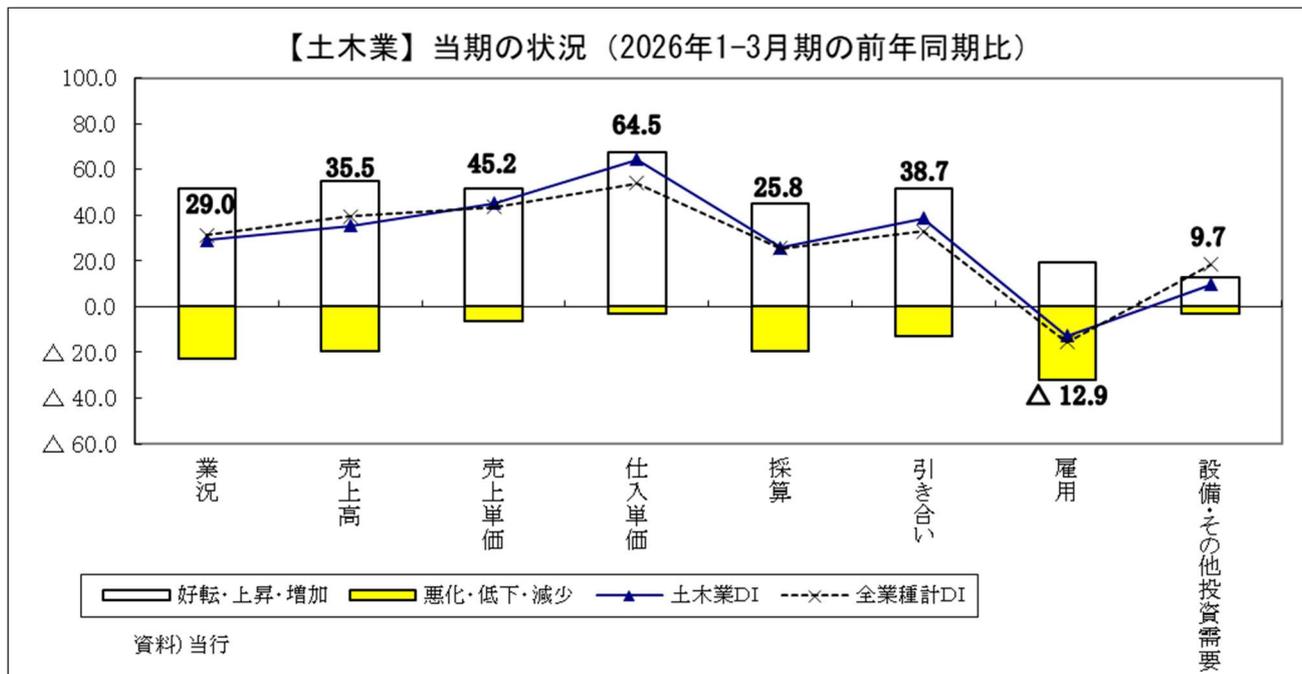


- ▶ 来期の見通し業況DI（当期比）は**36.1**となりました。売上高（57.7）は売上単価の改善予定により増加が見込まれます。仕入単価（46.2）は上昇が続く見通しです。雇用（Δ11.5）は人材不足が続く見通しとなっています。

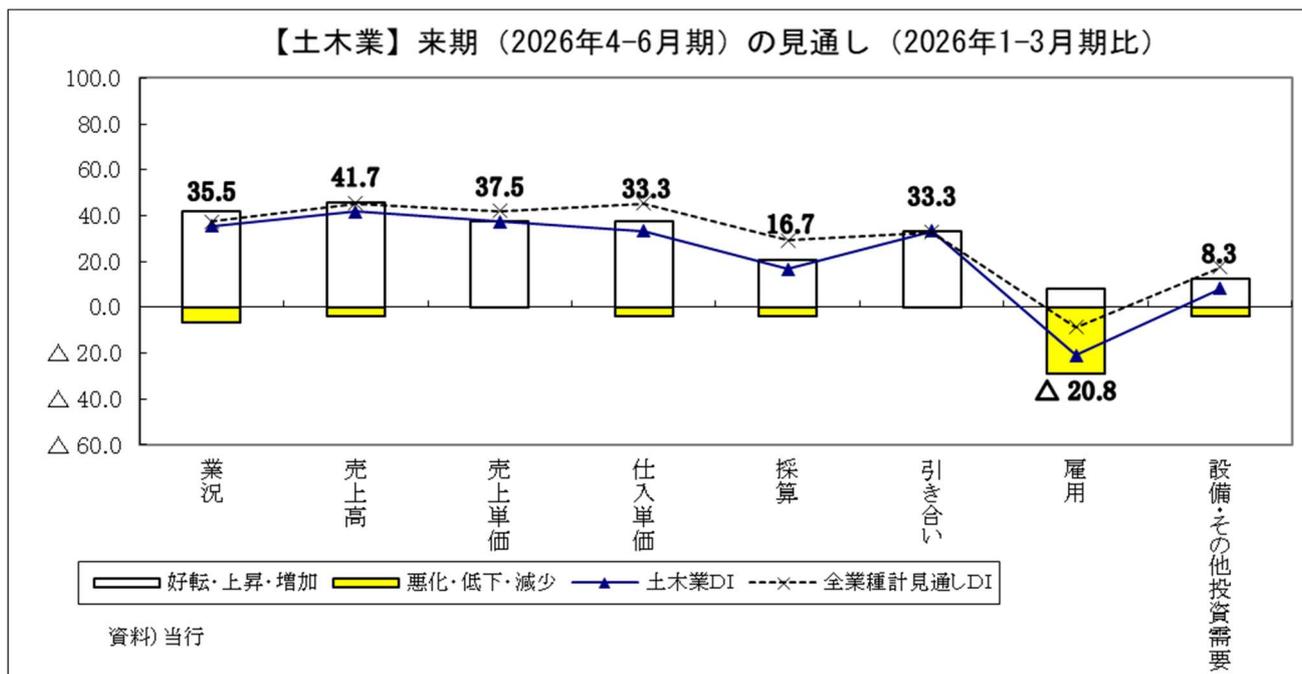


2. 土木業（回答企業：41社）

- ▶ 当期の業況DI（前年同期比）は**29.0**となりました。公共工事の受注増加や売上単価（45.2）の増加などにより業況改善がみられました。一方、建設資材高騰により仕入単価（64.5）は上昇が続いています。雇用（ $\Delta 12.9$ ）はマイナスとなっており、人材不足がみられます。

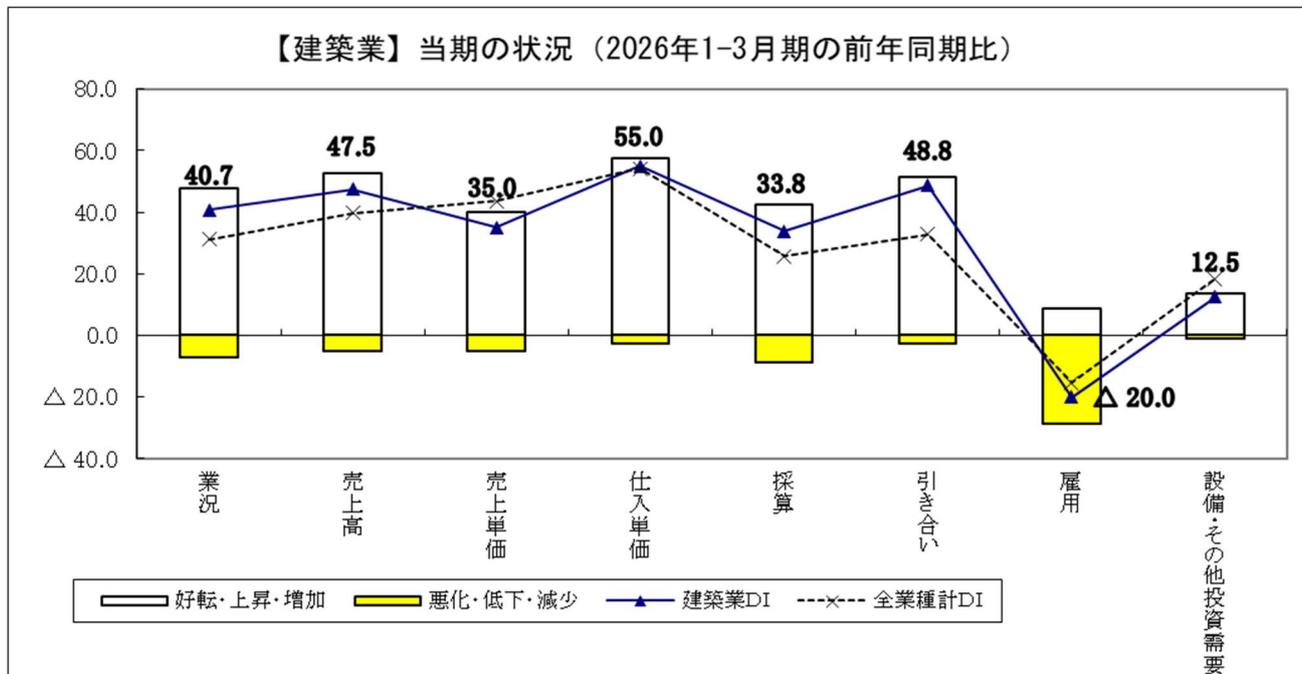


- ▶ 来期の見通し業況DI（当期比）は**35.5**となりました。売上高（41.7）は売上単価（37.5）や引き合い（33.3）の増加予定などにより改善が見込まれます。雇用（ $\Delta 20.8$ ）は人材不足が続く見通しとなっています。

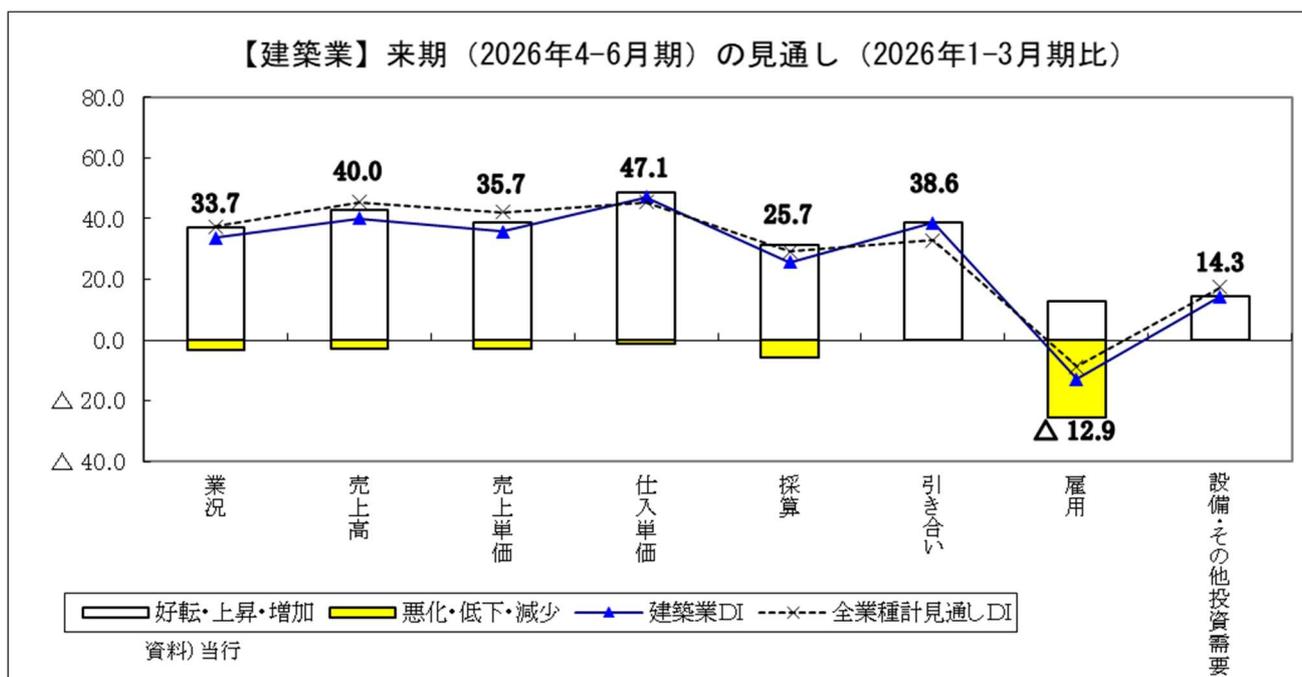


3. 建築業（回答企業：86社）

- 当期の業況DI（前年同期比）は**40.7**となりました。売上高（47.5）は、引き合い（48.8）や売上単価（35.0）の増加などにより業況改善がみられました。雇用（ $\Delta 20.0$ ）は、人材不足がみられます。

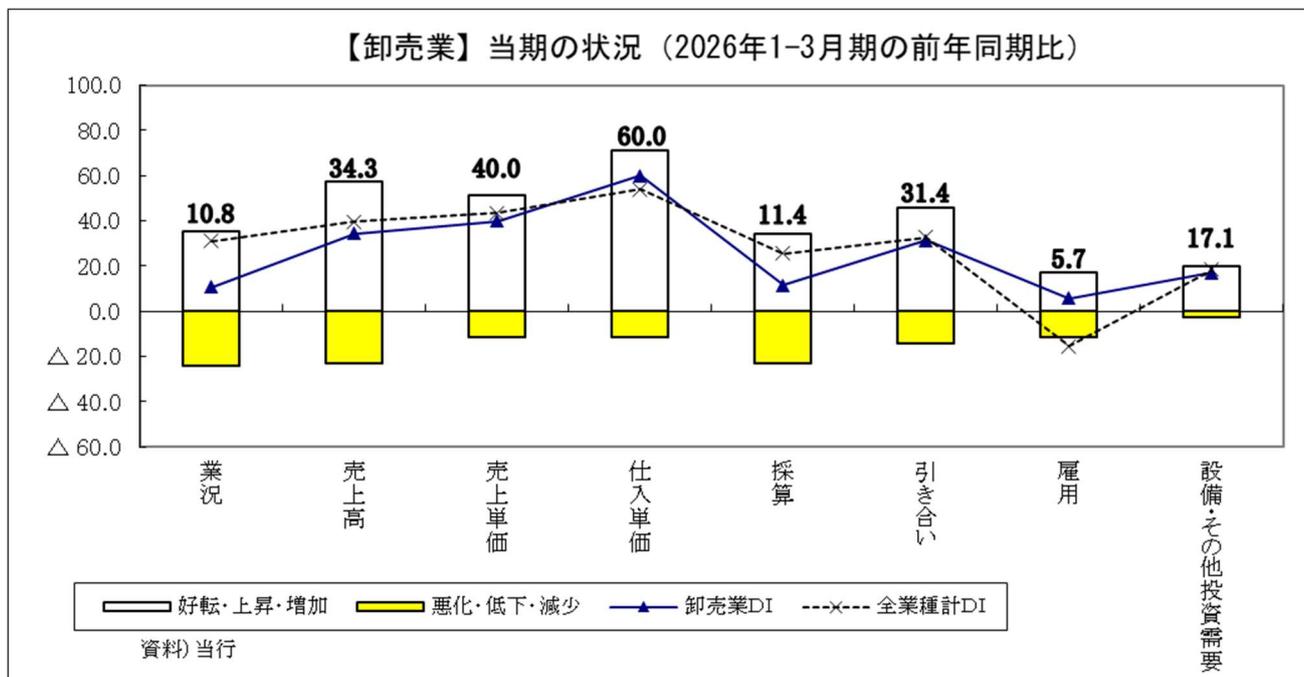


- 来期の見通し業況DI（当期比）は**33.7**となりました。売上単価（35.7）や引き合い（38.6）増加予定などにより好調な業況が続く見通しです。仕入単価（47.1）は、外注費や資材価格の高騰が続く見通しとなっています。

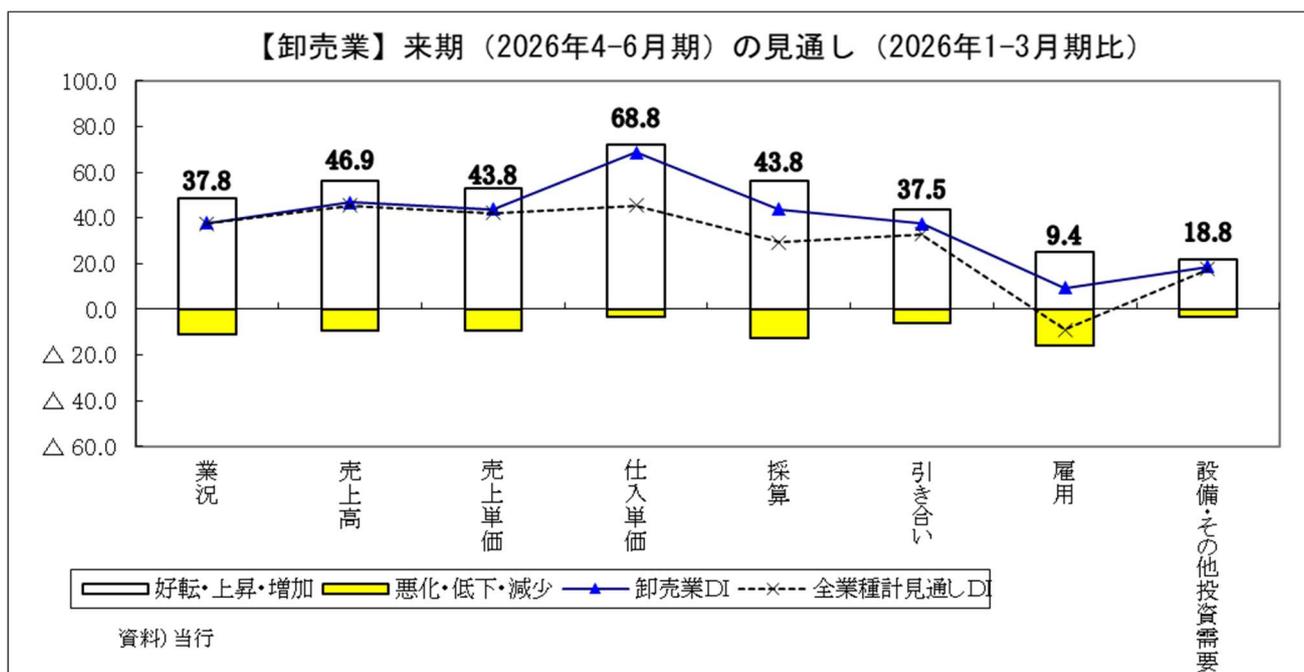


4. 卸売業（回答企業：37社）

- ▶ 当期の業況DI（前年同期比）は**10.8**となりました。売上高（34.3）は価格転嫁による売上単価（40.0）の改善や、引き合い（31.4）の増加などから業況改善がみられました。一部事業者において、円安進行による仕入単価の上昇により採算悪化がみられました。

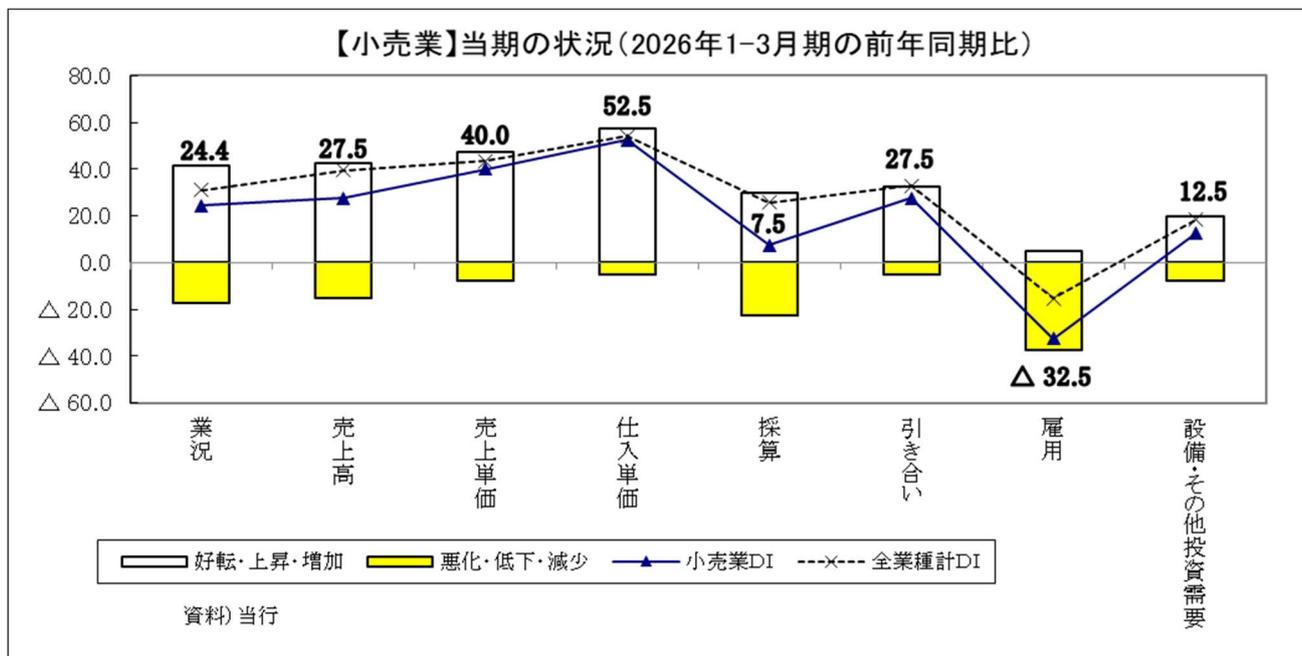


- ▶ 来期の見通し業況DI（当期比）は**37.8**となりました。引き合いの増加が見込まれ、価格転嫁を継続する事業者が多くみられます。一方、仕入単価（68.8）は上昇が続く見通しであるが、採算も改善見込みであり、業況の改善が見込まれます。

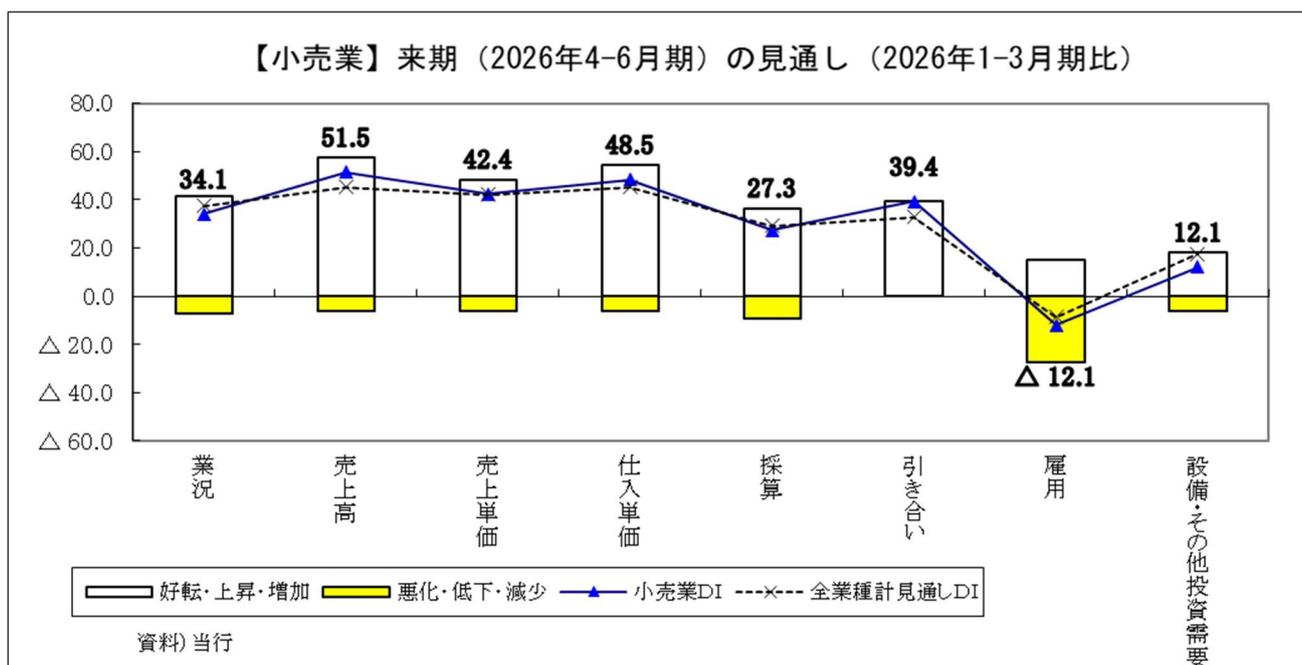


5. 小売業（回答企業：41社）

- 当期の業況DI(前年同期比)は**24.4**となりました。観光客数の増加などを背景に、売上高(27.5)や売上単価(40.0)、引き合い(27.5)が改善しています。仕入単価(52.5)は上昇が続いています。雇用(△32.5)は人材不足がみられます。

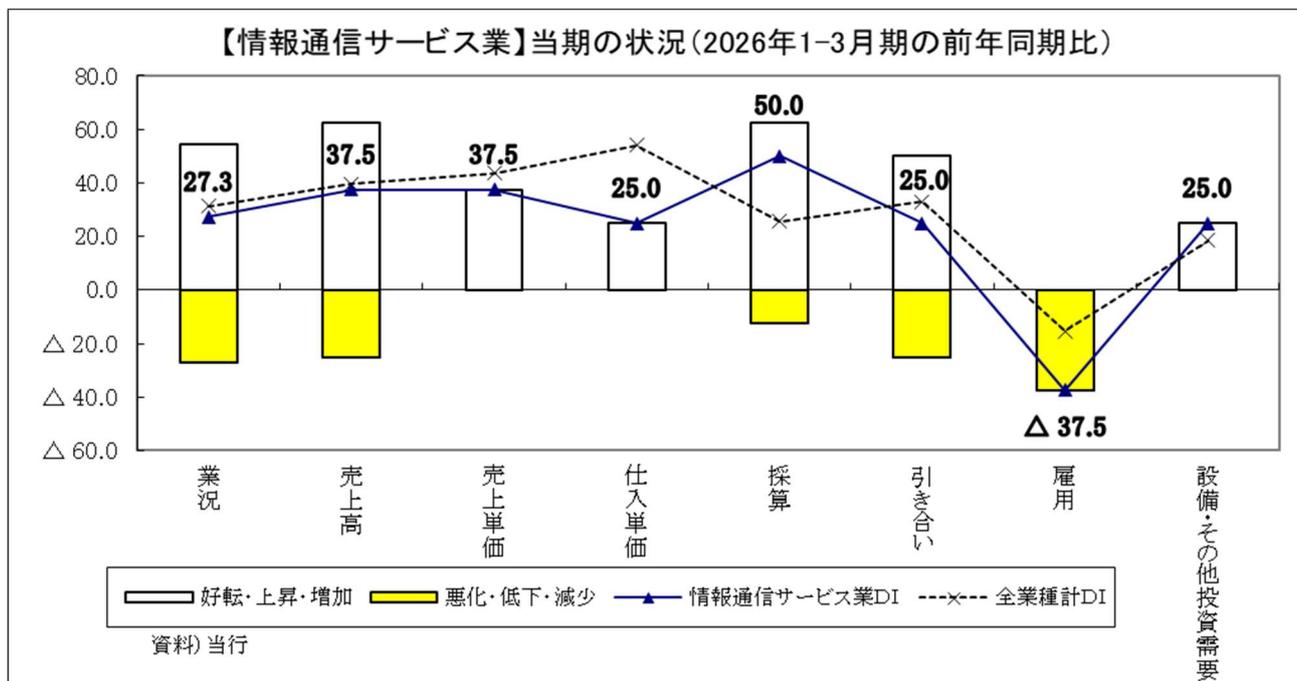


- 来期の見通し業況DI(当期比)は**34.1**となりました。新規顧客の増加や、継続した価格転嫁の予定により売上高(51.5)や採算(27.3)はポイントが高くなっており、業況改善が見込まれます。雇用(△12.1)は人材不足が続く見通しとなっています。

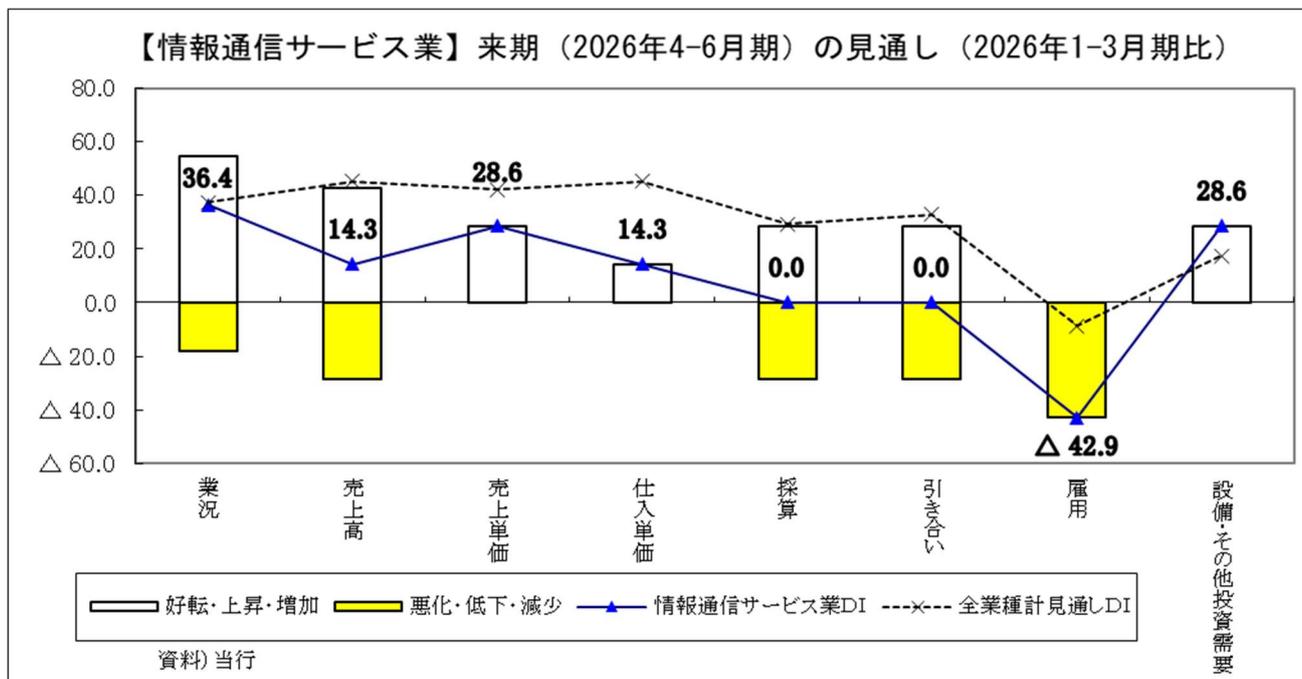


6. 情報通信サービス業（回答企業：11社）

- 当期の業況DI（前年同期比）は**27.3**となりました。システム開発事業者では、受注単価の増加により採算が改善した事業者がみられました。雇用（ $\Delta 37.5$ ）は人材不足がみられます。

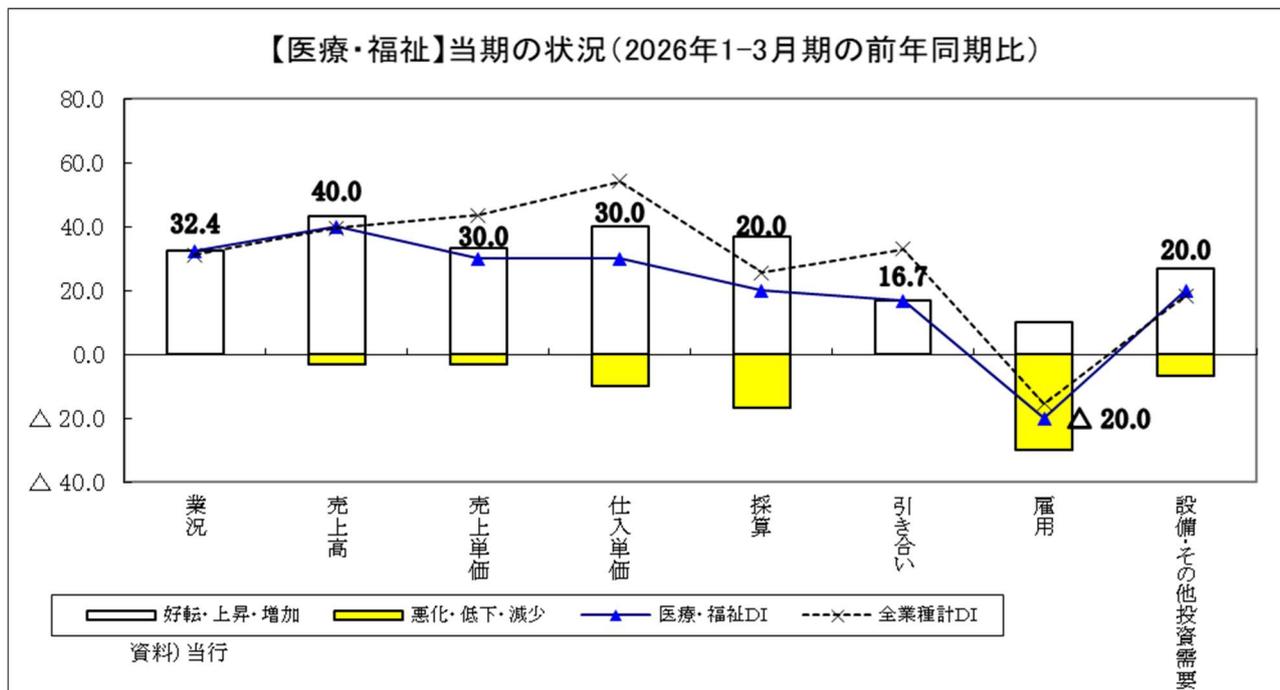


- 来期の見通し業況DI（当期比）は**36.4**となりました。受注単価の増加を予定している企業がある一方で、引き合いが減少している企業もみられます。雇用（ $\Delta 42.9$ ）は人材不足が続く見通しとなっており、全業種平均を大きく下回っています。

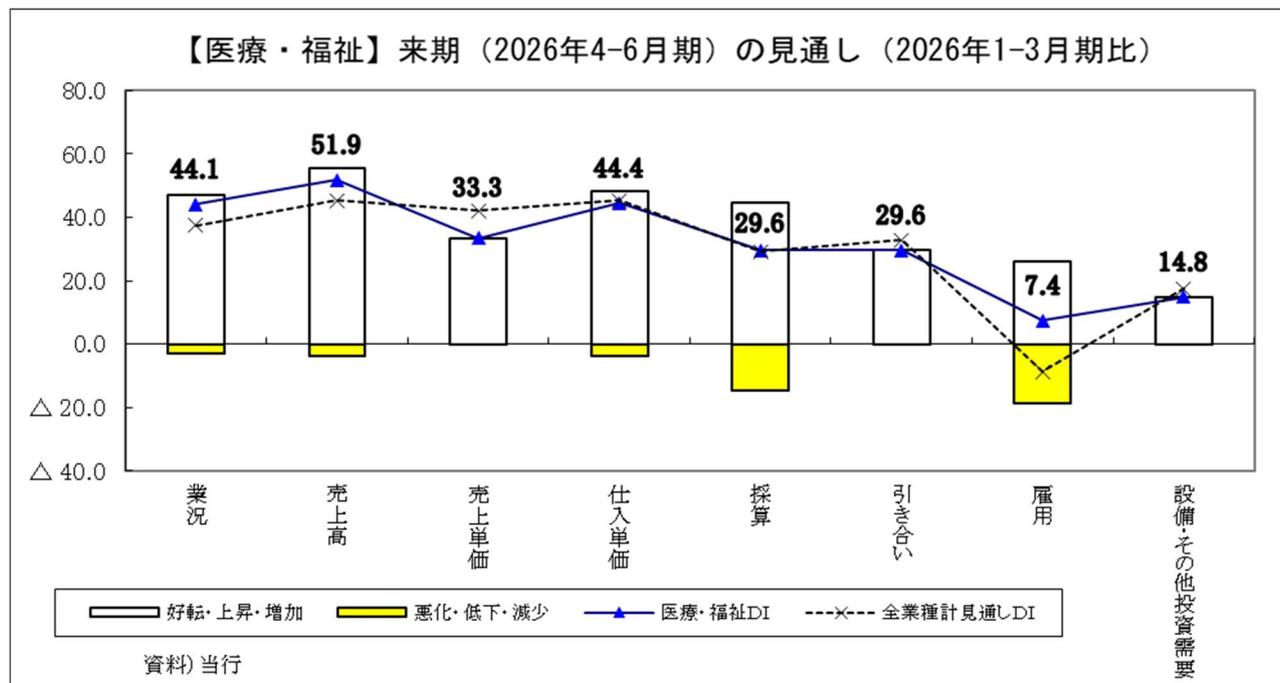


7. 医療・福祉（回答企業：34社）

- 当期の業況DI（前年同期比）は**32.4**となりました。一部介護事業者では、利用者数の増加による改善がみられました。雇用（ $\Delta 20.0$ ）は、人材不足がみられます。

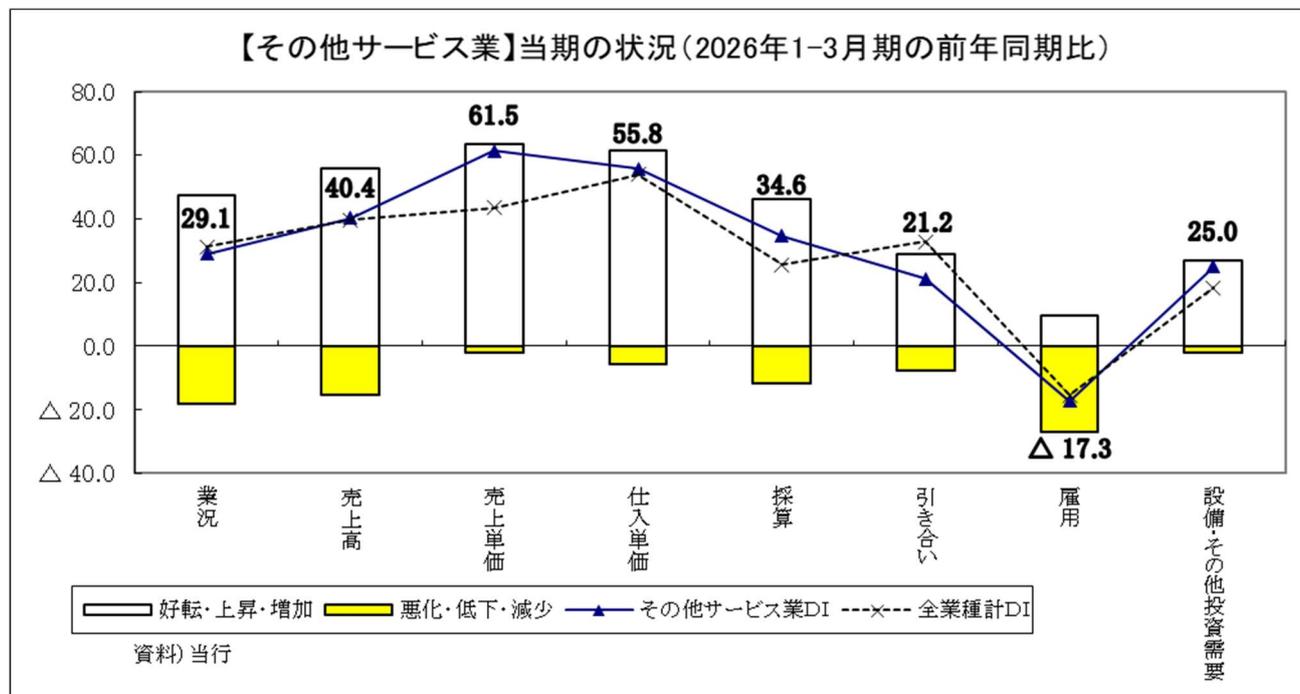


- 来期の見通し業況DI（当期比）は**44.1**となりました。売上高（51.9）は介護施設などの利用者数増加を見込む事業者が多くみられます。雇用（7.4）は、新規採用の予定などからプラスに転じる見通しとなっています。

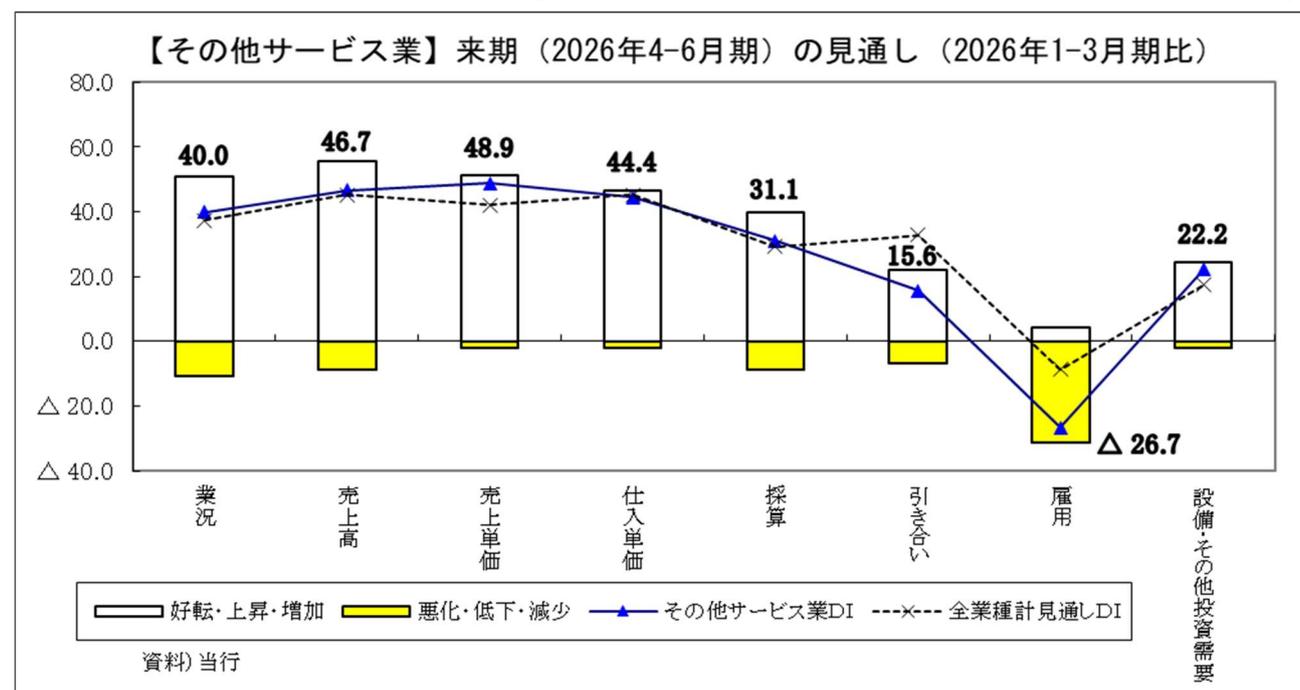


8. その他サービス業（ホテル、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業など）
（回答企業：55社）

- 当期の業況DI（前年同期比）は**29.1**となりました。売上高（40.4）は、観光客数の増加を背景に業況の改善がみられました。また、需要増加に伴い売上単価（61.5）は上昇しました。雇用（ Δ 17.3）は、人材不足がみられます。

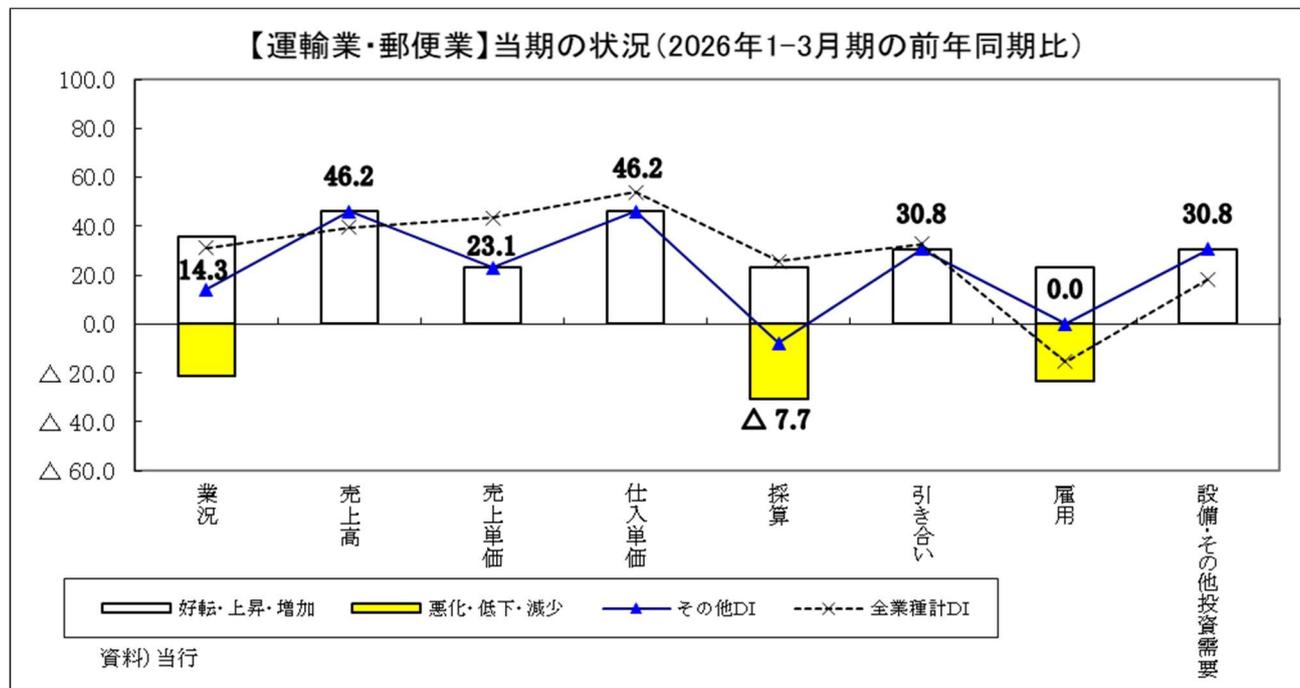


- 来期の見通し業況DI（当期比）は**40.0**となりました。継続した売上単価の増加予定により、採算改善を見込む事業者がみられます。雇用（ Δ 26.7）は人材不足が続く見通しとなっています。

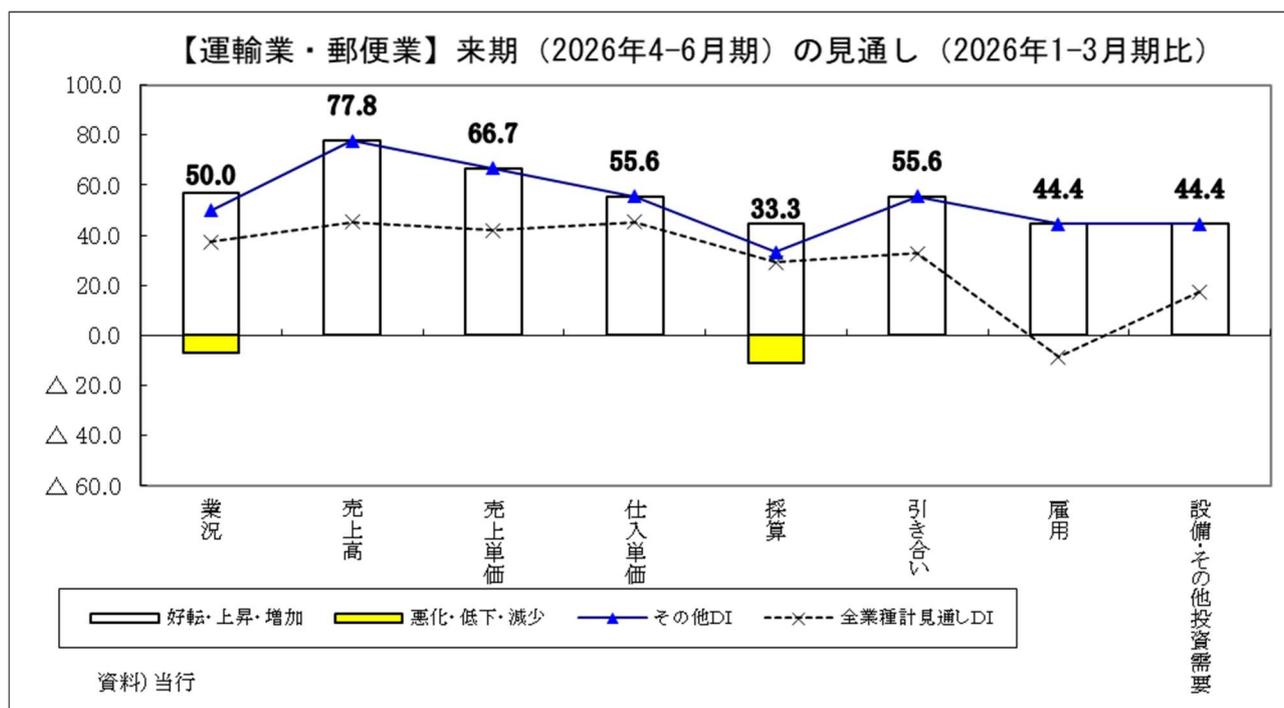


9. 運輸業、郵便業（回答企業：14社）

- 当期の業況DI（前年同期比）は**14.3**となりました。仕入単価（46.2）は、人件費や燃料費などの増加があり、採算は悪化しています。一部事業者において、価格転嫁が追い付いていない状況がみられ、採算に課題が残りました。

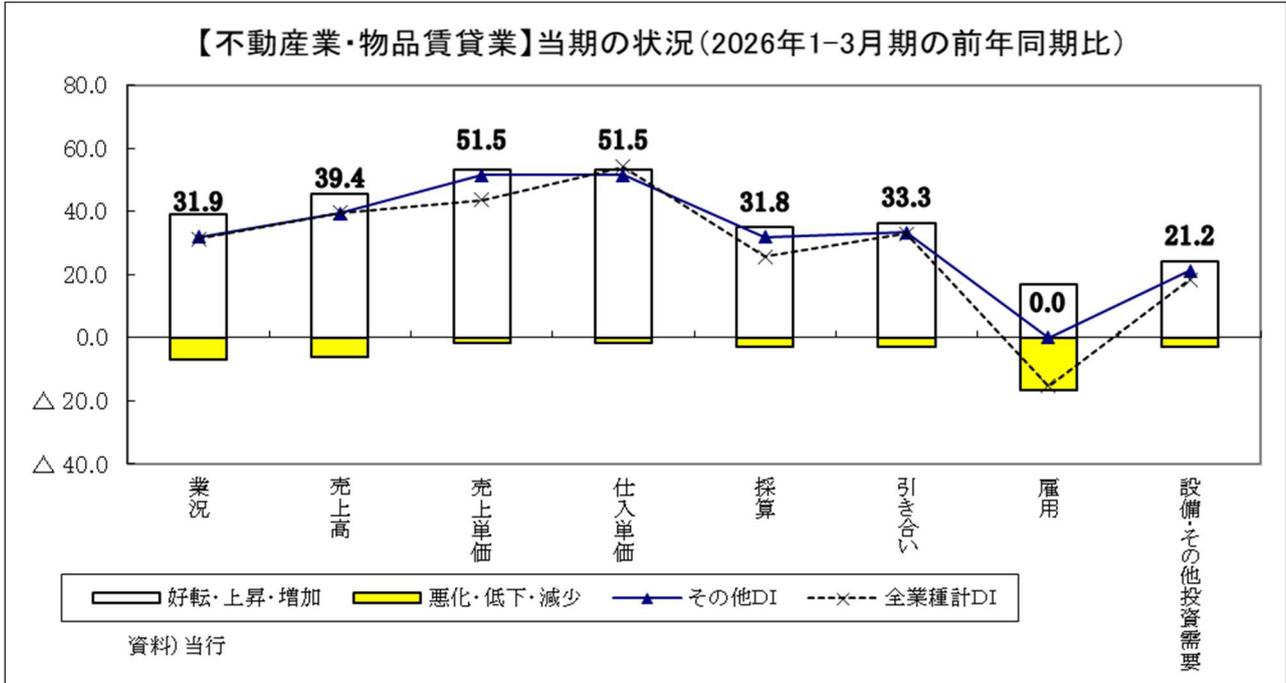


- 来期の見通し業況DI（当期比）は**50.0**となりました。引き合いは増加する見通しであり、売上単価の交渉による売上増加を見込む事業者が多く、採算の改善が見込まれています。雇用（44.4）についても新規採用の予定などから、改善する見通しです。

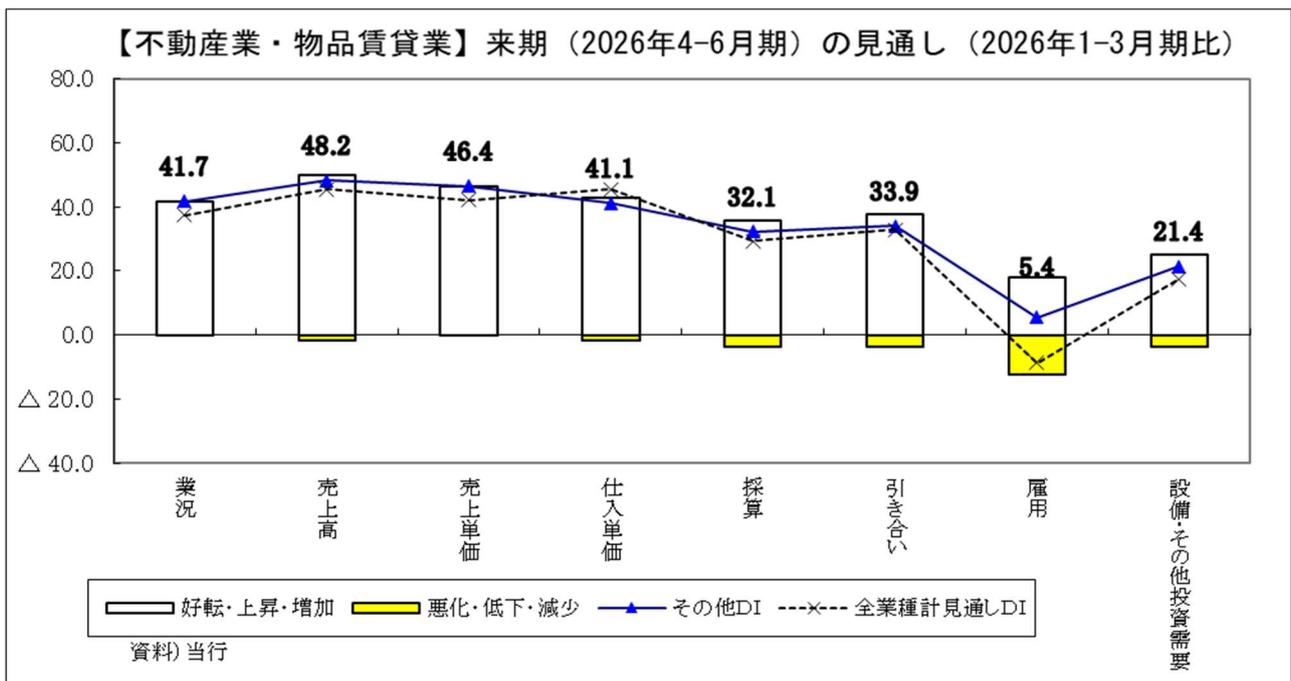


10. 不動産業、物品賃貸業（回答企業：72社）

- ▶ 当期の業況DI（前年同期比）は**31.9**となり、業況の改善がみられます。不動産賃貸業において、家賃の上昇により売上単価や採算が改善している事業者がみられました。不動産売買の引き合いも多い一方で、物価上昇により仕入単価も上昇がみられます。

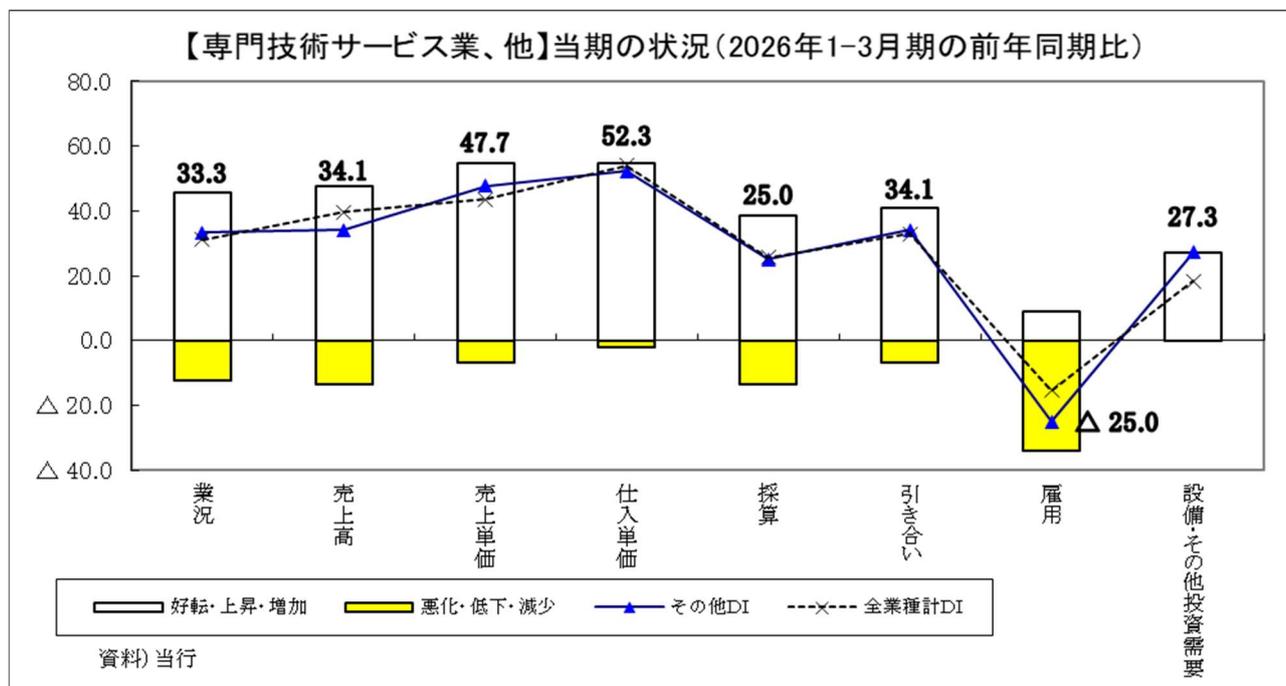


- ▶ 来期の見通し業況DI（当期比）は**41.7**となりました。引き続き売上単価や引き合いの増加が見込まれ、好調な業況が続く見通しとなっています。雇用（5.4）についてもプラスに転じる見込みであり、改善する見通しです。

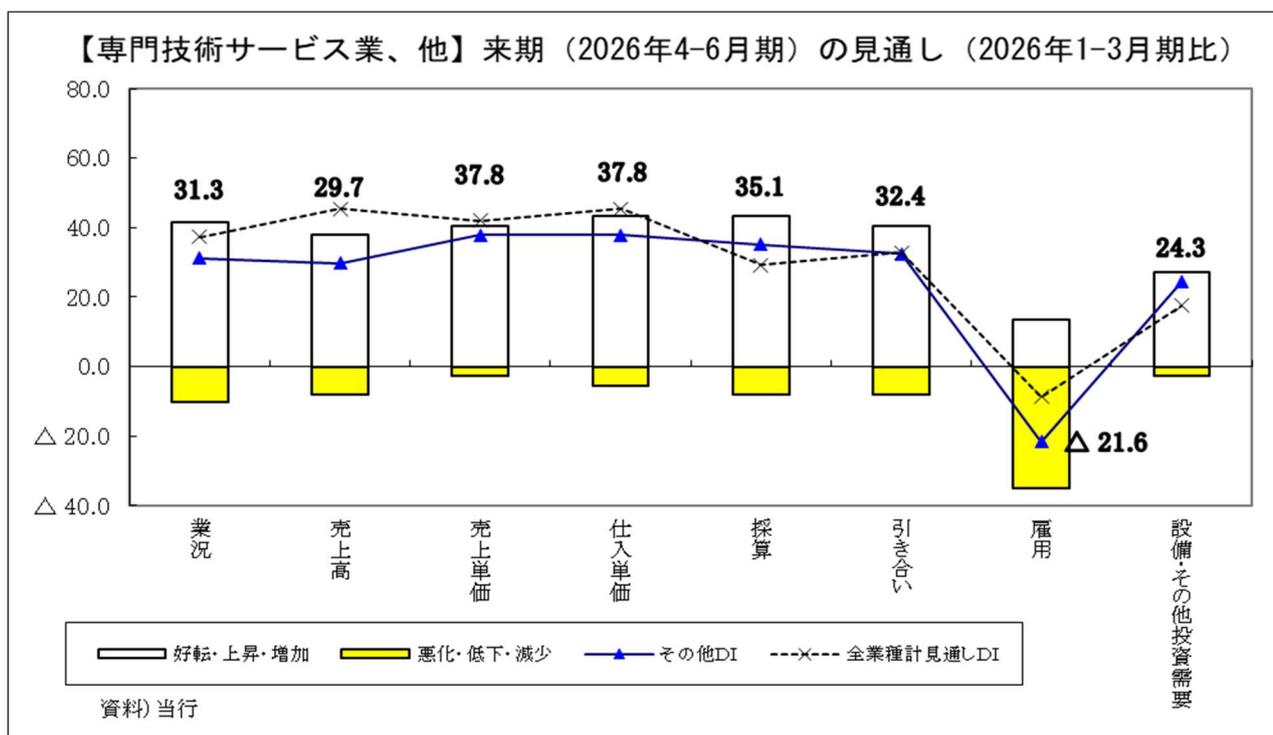


11. 専門・技術サービス業、他（回答企業：48社）

- 当期の業況DI（前年同期比）は**33.3**となり、業況の改善がみられます。売上（34.1）は、売上単価や引き合い増加により改善しています。一方で、仕入単価も上昇が続いています。雇用（ $\Delta 25.0$ ）は、人材不足がみられます。



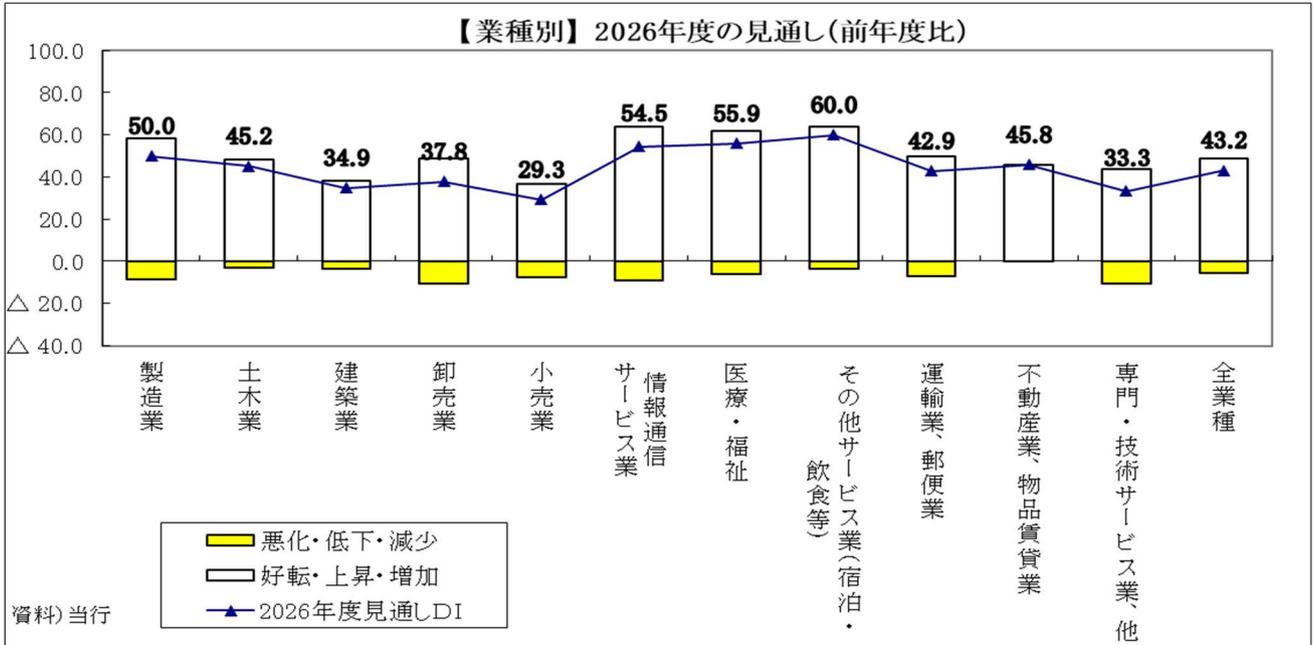
- 来期の見通し業況DI（当期比）は**31.3**となりました。売上単価の引き上げ予定がある一方で、仕入れ単価も上昇する見通しとなっています。雇用（ $\Delta 21.6$ ）は人材不足が続く見通しとなっています



IV. 調査結果 2026年度の見通しDI (2025年度比)

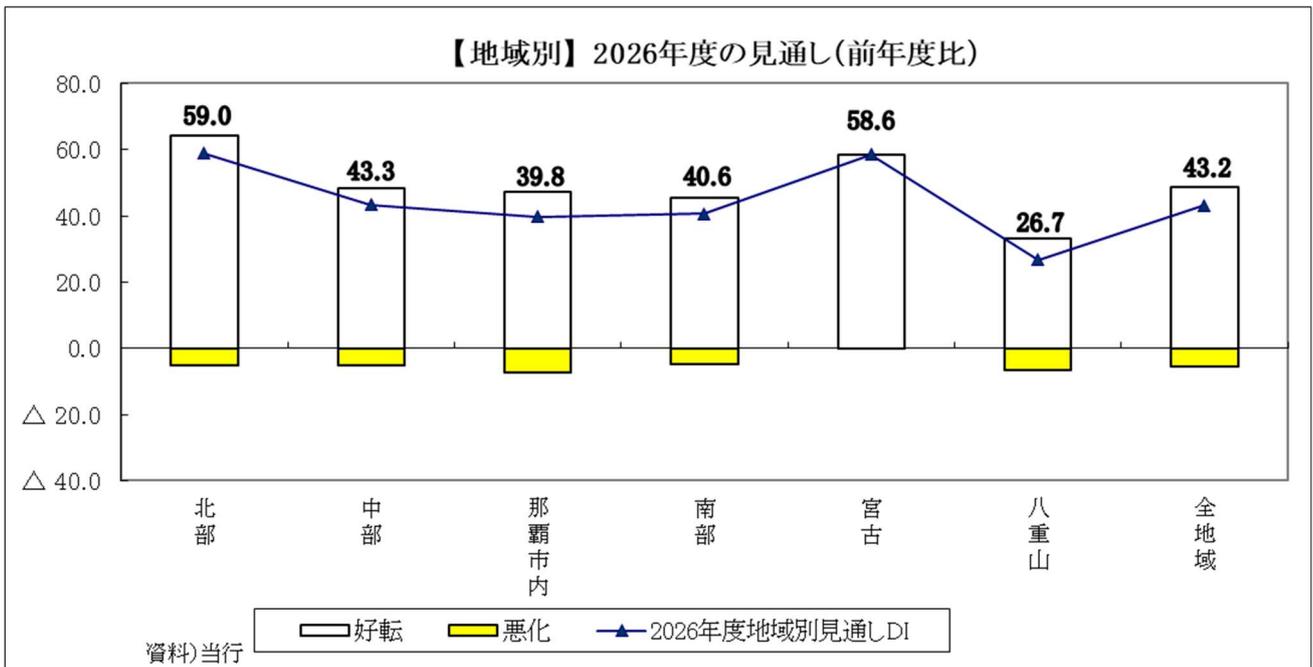
1. 業種別見通し

➤ 2026年度見通し業況DIは全体で**43.2**となり、業況改善の動きが見込まれます。業種別の見通しでは、【**その他サービス業(宿泊、飲食等)**(60.0)】、【**医療・福祉**(55.9)】、【**情報通信サービス業**(54.5)】をはじめ、多くの業種において2025年度と比較して業況の改善が見込まれています。



2. 地域別見通し

➤ 2026年度地域別見通しについて、北部(59.0)は観光客数増加や、大型の公共工事受注見込みなどによりポイントが高くなっています。宮古(58.6)は観光客数増加や、建築受注増加の見込みによりポイントが高くなっています。



IV.まとめ（総括）

➤ 【当期の業況 DI】

当期（2026年1-3月期）の業況DIは**31.2**（前年同期比）と18期連続のプラスとなりました。項目別では、売上単価の改善や、引き合い増加などによる業況改善がみられます。一方、人件費や仕入単価の上昇が続いており、採算については業種ごとに差がみられました。雇用はマイナスが続いており、人材不足がみられます。

業種別では、堅調な観光客数の増加を背景に、【製造業】や【その他サービス業（宿泊・飲食等）】で改善があった他、【建築業】、【医療・福祉】のポイントは高くなっています。一方で、為替影響による仕入単価の上昇や人件費などの費用増加などにより、【卸売業】、【運輸業・郵便業】においては、業況の悪化がみられました。

➤ 【来期の見通し業況 DI】

来期（2026年4-6期）の見通し業況DIは**37.4**（当期比）となりました。項目別では、売上高や売上単価、採算などで業況改善が見込まれます。仕入単価は引き続き上昇が続く見通しとなりました。また、雇用については、【卸売業】、【医療・福祉】、【運輸業・郵便業】、【不動産業、物品賃貸業】の業種に改善の動きがみられ、業種ごとに差が出る見通しです。

業種別では、全業種においてプラスとなっています。【卸売業】、【運輸業・郵便業】、【不動産業・物品賃貸業】は、引き合い増加や継続した売上単価の引き上げ予定などによりポイントは高くなっています。

➤ 【2026年度の見通し業況 DI】

2026年度の見通し業況DIは**43.2**（2025年度比）となり、業況改善の動きが見込まれます。業種別では、堅調な観光客数の増加を背景に、【その他サービス業（宿泊・飲食等）】や【製造業】において、好調な業況が見込まれています。また、【医療・福祉】において、雇用の改善予定や、診療報酬・介護報酬の改定予定などからポイントは高くなっています。地域別では、【北部】や【宮古】などにおいて、観光客数増加や建設関連工事の受注増加の見込みにより、ポイントは高くなっています。

一方で、本調査終了後の国際情勢の変化に伴い、今後の原価高騰が想定されることから今後の業況へ影響が出る可能性がある点には留意が必要です。